

輸出事業計画

※申請者名：エイアイピー株式会社

品 目：いちご

1. 輸出における現状と課題

(1) 現状

- ・2018年頃、タイ向けに日本産青果物を輸出している事業者とつながりのある担当者が来園され、品質を高く評価いただいたことをきっかけに輸出を開始
- ・当初10kg程度の輸出が、令和3年に20kg 22万円まで拡大
その後、新型コロナウイルス感染拡大が長期化する中、事業者が次々に撤退
現在新たな事業者とタイ向け及び台湾向けに輸出商流を回復、構築するため商談を進めている。
- ・一方で、2020年12月頃、(公財)長野県中小企業振興センター主催の「おいしい信州ふーど商談会」へ参加し、香港への輸出を開始することで調整中

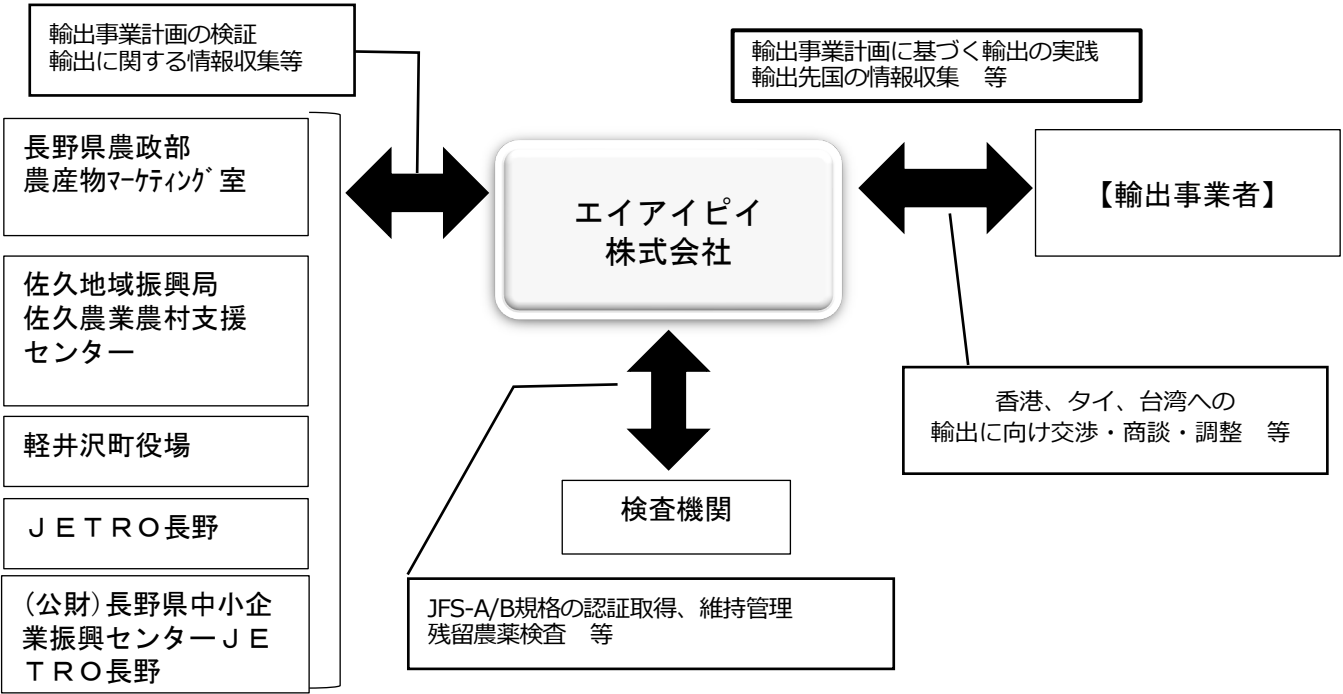
(2) 課題

区分	内 容	
生産	タイ	・選果こん包施設の衛生管理証明の取得が必要
	共通	・出荷用専用ハウスの整備による生産力の向上
		・品質の向上（大粒生産）
		・国内需要との調整と安定生産体制の確立
		・残留農薬基準への対応
加工	共通	・加工品の輸出
流通 販売	タイ	・流通先の検討
	共通	・ロットの確保と品質管理
		・小さいサイズの果実の販売の検討

2. 輸出事業計画の取組内容

区分	取組内容
生産	・【タイ】「タイ向け青果物の選別及びこん包に係るJFS規格」認証の維持・更新
	・輸出増に合わせ出荷専用ハウスの整備の検討
	・需要が多い大粒、かつ、高品質な果実の安定生産技術の確立
	・国内需要と海外需要のバランスがとれた輸出拡大
	・高品質果実の安定生産体制を確立する。
	・天敵利用等による農薬使用回数の削減と輸出前残留農薬検査の実施（年1回以上）
加工	・【タイ】残留農薬基準値を下回っていることを証明する分析結果証明書の取得
	・糖度の低い果実をドライイチゴ（特許技術）の商品化と輸出の可能性検討
流通 販売	・台湾向け及びタイ向けの商流の確立に向けた商談と調整
	・輸出事業者とのロットに関する協議と商品ロスを軽減のためのこん包資材の検討、現地での品質管理体制の構築
	・品質の良い小さい果実（中粒）の中間所得者層（ミドルアッパー）への販売戦略の検討

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

		現状 (令和 3 年)	目標年 (令和 7 年)	備考
発地地区	輸出額(円)	215,760	2,000,000 (タイ250,000、香港 1,500,000、台湾250,000)	
	輸出量 (t)	0.02	0.2 (タイ0.025、香港0.15、 台湾0.025)	
	輸出先国	タイ	香港・タイ・台湾	
	生産量 (t)	20	26	